

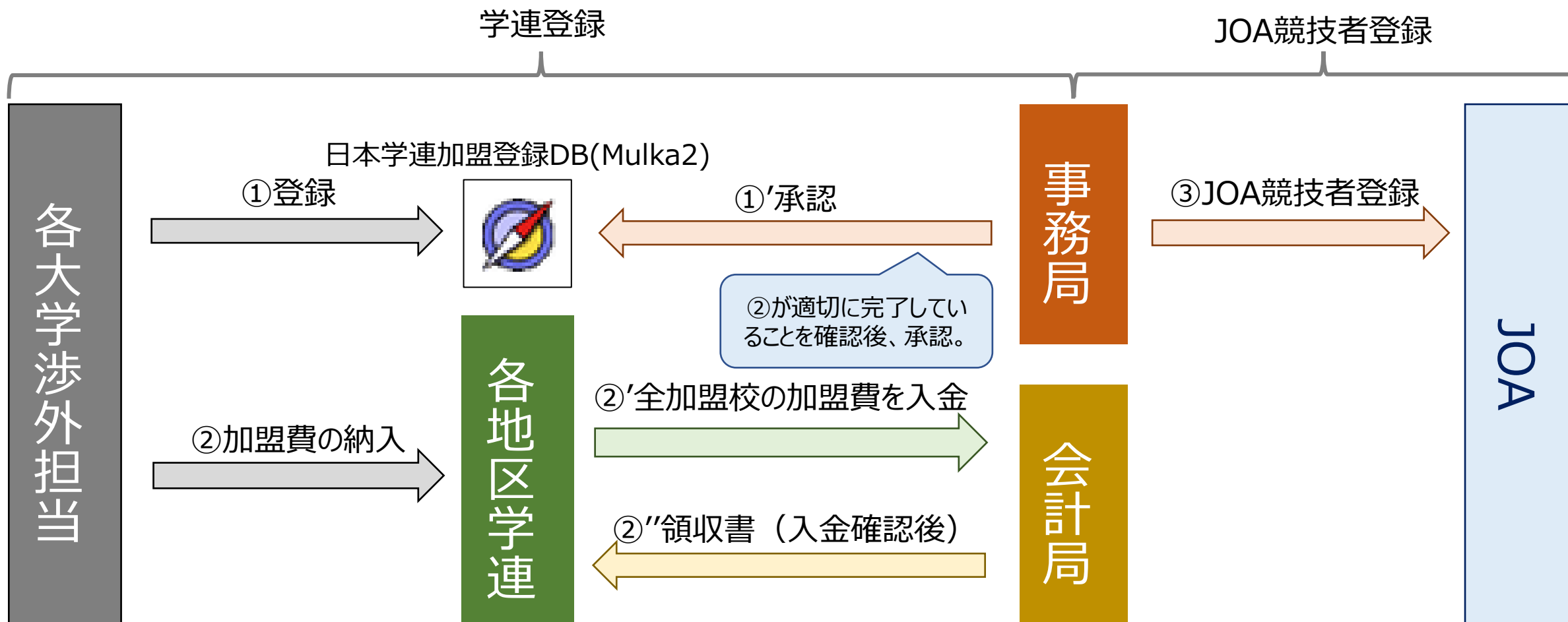
学連登録・JOA競技者登録



1

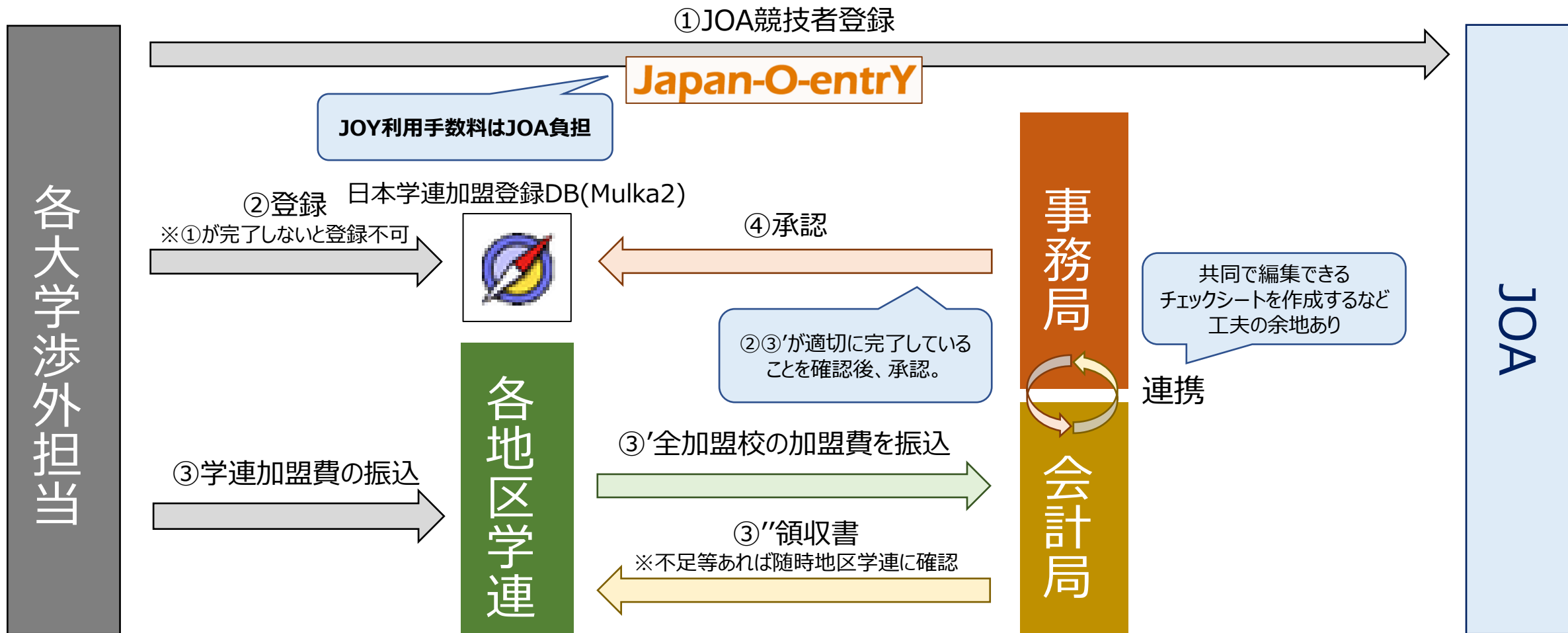
学連登録・JOA競技者登録（2023年度版）

④をもって学連登録完了。登録期間は4/1～5/31（承認期間は6/1～15。この期間の登録禁止。）
新入生についても、同様のフローを辿る（登録期間は4/1～8/31、承認はその後2週間を目安に行う。）



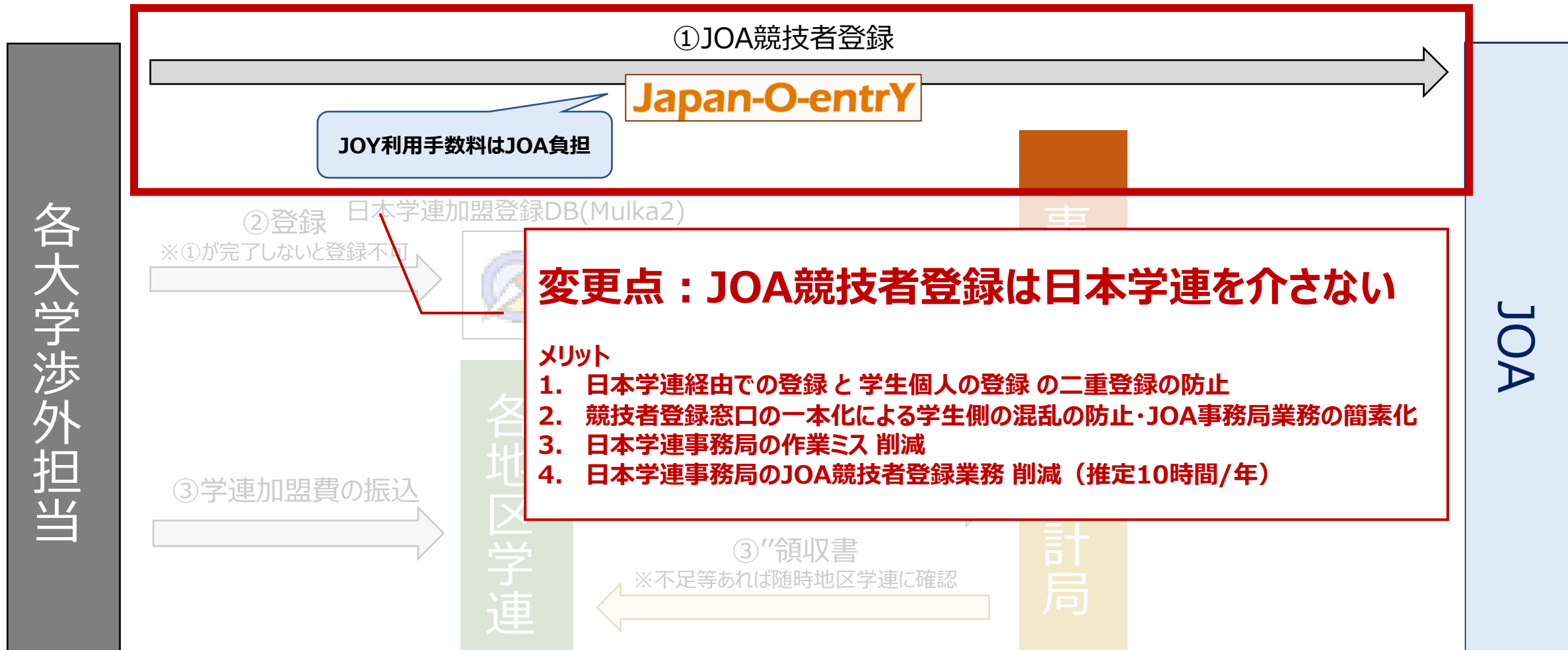
学連登録・JOA競技者登録（2024年度版）

④をもって学連登録完了。登録期間は4/1～5/31（承認期間は6/1～15。この期間の登録禁止。）
新入生についても、同様のフローを辿る（登録期間は4/1～8/31、承認はその後2週間を目安に行う。）



学連登録・JOA競技者登録（2024年度版）

④をもって学連登録完了。登録期間は4/1～5/31（承認期間は6/1～15。この期間の登録禁止。）
新入生についても、同様のフローを辿る（登録期間は4/1～8/31、承認はその後2週間を目安に行う。）



システム改修費の負担について ※要承認

本方式を実装するにはJapan-O-entrY と Mulka2の改修が必要。

各システムの改修費の負担を以下としたく、下記**赤字部分**の承認をいただきたい。

※ JOA / Japan-O-entrY管理者（西村さん） / Mulka2管理者（的場さん）合意済み。

1. Japan-O-entrY 改修費

- **Japan-O-entrY利用手数料をJOAが負担**

- Japan-O-entrYとしては今後利用手数料が入ってくるなら改修費用は無しでOK

2. Mulka2 改修費

- (システム改修費用の代わりに) **的場さんを永続賛助会員とする**

- Japan-O-entrYの区分で「永続会員」を選択できるようにする？

本来のシステム改修費 約40万円 → **日本学連の金銭負担 0に**



賛助会員募集


全国の学生オリエンテーリングクラブの活動をご支援ください

主な使用用途

頂きました賛助金は、予算に組み込んだうえ、以下の用途に主に使わせていただいております。

- ・インカレ運営のための実行委員会への貸付金
- ・地図作製費用
- ・インストラクタ講習会の開催費用
- ・JOA や UNIVAS など、学連活動の実現のために加盟している諸団体の加盟費
- ・幹事会開催に伴う諸経費

賛助会員特典

- 
- ① 日本学連広報誌「いぶき」の配信（希望者のみ）
 - ② 日本学連行事および後援事業での優遇措置
 - ③ 該当年度のインカレマップの配布

地区学連 フィードバック制度

寄付いただいた賛助金の一部が出身地区学連に還元されます！

賛助会員様から頂いた賛助金の一部（お一人様あたり1,000円）は年毎の年末に、地区学連にフィードバックさせていただきます。地区学連にフィードバックされた資金は、地区学連の普及活動などに使用させていただきます。

フィードバックをご希望の場合は、連絡欄に希望される学連をお書きください。

新規・継続会員登録は左のQRコード、または下のURLをご参照ください。
URL:<https://japan-o-entry.com/event/view/710>



インカレ枠配分に関する議題 ～枠推薦選手がインカレの本選にて枠獲得を することができるようにするべきかどうか～

【背景】

以前の臨時総会では、「推薦枠で出場する選手は来年度の枠を獲得できない」と説明し、そちらで承認を得た。しかし、「仮に男子選手権クラスにて推薦出場者が1名、30位以内に入った場合、その人は枠を獲得することができないので、31位の人が枠を獲得するという認識で合っているか」という質問が届いた。推薦枠によって出場する選手が枠を獲得できるか否かに関してあまり議論がなされていなかったため、改めて臨時総会を開くに至った。

【論点】

- ・選手としての結果の公平性
- ・規約改正の必要性
- ・各地区の実力と枠数が見合わないケースが増える可能性
- ・推薦対象学連ではない学連からの不満
- ・枠獲得における地区ごとの平等性

【案】

- ① 枠推薦制度によって選ばれた選手が、インカレ選手権クラスにおいて男子だと30位以内、女子だと15位以内をとった場合、枠を獲得できる
- ② 枠推薦制度によって選ばれた選手が、インカレ選手権クラスにおいて男子だと30位以内、女子だと15位以内をとっても、枠を獲得できない

【メリデメ詳細】

枠推薦選手が枠を獲得できるようにするメリット(=枠獲得できないデメリット)

① 推薦であれ、実力を認められて走る以上、結果を出したものが枠を獲得できるという平等な仕組み(インカレでは結果を出したものが枠獲得の権利を得られるので、各地区で選ばれた選手と今回の推薦枠で選ばれた者に差異を設けるのは不公平)

⇨一方、推薦枠で出場する選手はこの特例がなければ選手権クラスにそもそも出場できていなかった。地区が定める手段によって選手権クラスの出場資格を得ていないが特別に出場できており、この時点で不平等があるといえる。ここで、さらに枠を取れるようにすると更なる不平等といえるのではないか。

② 規約改正が必要ない。赤い太字で示した部分が今回争点となる部分。

日本学生オリエンテーリング選手権ロング・ディスタンス競技部門 競技者数及びその配分に関する規則
第3条 競技者数配分方法(男子)

1. 学連枠 12 名を各地区学連に2名ずつ配分する。
2. 前年度実績枠 48名を前年度男子ロングの実績を基に、以下の式により各地区学連に配分する。地区学連の前年度実績枠の人数 = (当該地区学連前年度 30 位以内の人数) / (前年度 **30 位以内の総人数**) × 48 但し、小数点以下は原則として切り捨て、48 名に欠ける人数分については、小数点以下の 数値 の大きい地区学連から順に配分する。

※

枠推薦選手が枠を獲得できるようにするデメリット(=枠獲得できないデメリット)

③この規約が適用されるのは、もともと枠数が少なく、かつ、副数人が急成長した学連(以下、A学連と称する)。ということは裏を返せば、急衰退する可能性もある。そうすると、ある年に多くの枠を獲得した学連が翌年インカレエリートを走る実力者が用意できず、欠場or各地区ごとの格差が大きくなるおそれがある(A学連の選手が、他の学連よりインカレ選手権クラスに出場しやすい)

⇨現3回生以下の層が薄い学連で4回生が枠をたくさん獲得した場合も一般論として言えることなので、今回に限った話ではない

⇨インカレで結果に応じて、来年度の枠数を決定する目的は、「各地区の競技力を正確に反映すること」であり、現状、インカレ以上に反映できるものがないため、インカレ選手権クラスの結果を用いている。この目的を考慮すると、「現3回生以下の層が薄い学連で4回生が枠をたくさん獲得した場合」は、来年度のインカレが、実力と枠数が見合っていないこととなり、目的に適合していない。だから、現3回生以下の層が薄い学連で4回生が枠をたくさん獲得した場合はどうしようもないとしても、なるべくそうなる状況は起こらないようにすべきではないか。

④この規約が適用される学連は稀。適用されなかった学連からしたら、自分達の来年度の枠が推薦枠のせいで減る可能性がある(主観的思い)

⑤特定の地区学連のみ枠配分で有利になる。現行制度の枠配分は全学連統一の条件のもとで振り分けられているが、推薦枠選手が枠を取れるようになった場合、特定の地区学連のみに適用されるルールとなってしまう。

【メリデメ整理】

	枠推薦選手が枠を獲得できる	枠推薦選手が枠を獲得できない
①インカレ本選で結果を出したものが枠獲得という形で平等に評価される	△ (考え方次第)	△ (考え方次第)
②規約改正が不要	○ (規約改正不要)	× (規約改正必要)
③各地区の実力と枠数が見合わないケースが増える可能性がある	○ (増える)	× (増えない)
④推薦対象学連ではない学連からの不満	○ (不満あり)	× (不満無し)
⑤枠配分の地区ごとの平等性	× (不平等)	○ (平等)

【各校でしてほしいこと】

①資料をよく読む&分からない箇所は日学幹事に質問

①以下5点の論点に優先順位をつけ、枠獲得できる案とできない案、各校どちらを推すか決めてもらう

- ・選手としての結果の公平性
- ・規約改正の必要性
- ・各地区の実力と枠数が見合わないケースが増える可能性
- ・推薦対象学連ではない学連からの不満
- ・枠獲得における地区ごとの平等性

【今後の流れ】

総会決議

→「推薦枠により出場した選手が枠獲得できる」と「推薦枠により出場した選手が枠獲得できない」のどちらがよいか各校に投票してもらう

→得票数の多いほうで、23年度の秋インカレの結果から適用する

※「推薦枠により出場した選手が枠獲得できない」となった場合、規約を以下のように変更する

ロング

第2条 競技者数と配分の対象

2.前年度実績枠

48名を前年度男子ロングの実績を基に、以下の式により各地区学連に配分する。

地区学連の前年度実績枠の人数 = (技術委員会推薦出場者を除く当該地区学連前年度 30 位以内の人数) / (技術委員会推薦出場者を除く前年度上位30名) × 48

但し、小数点以下は原則として切り捨て、48名に欠ける人数分については、小数点以下の数値の大きい地区学連から順に配分する。

3.男女それぞれにおいて、対象地区学連に在籍し、日本学生オリエンテーリング選手権ロング・ディスタンス競技部門のエントリー締切日2週間前での学生内の日本ランキング(総合エリートフォレスト)12位以内の者は、日本学生オリエンテーリング連盟の技術委員会に対して選手権への出場を希望する推薦書を提出することができる。技術委員会が推薦者を承認することで選手権の出場資格を得る。対象地区学連とは、各地区学連の上記基準ランキングを満たす選手人数が学連枠と前年度実績枠を合計した人数より多い地区学連のことを示す。

4.第2条第3項は2023年度限りの特例措置とする。

スプリント

第2条 競技者数と配分の対象

2.前年度実績枠

48名を前年度男子スプリントの実績を基に、以下の式により各地区学連に配分する。

地区学連の前年度実績枠の人数 = (技術委員会推薦出場者を除く当該地区学連前年度 30 位以内の人数) / (技術委員会推薦出場者を除く前年度上位30名) × 48

但し、小数点以下は原則として切り捨て、48名に欠ける人数分については、小数点以下の数値の大きい地区学連から順に配分する。

3.男女それぞれにおいて、対象地区学連に在籍し、日本学生オリエンテーリング選手権スプリント競技部門のエントリー締切日2週間前での学生内の日本ランキング(総合エリートスプリント)12位以内の者は、日本学生オリエンテーリング連盟の技術委員会に対して選手権への出場を希望する推薦書を提出することができる。技術委員会が推薦者を承認することで選手権の出場資格を得る。対象地区学連とは、各地区学連の上記基準ランキングを満たす選手人数が学連枠と前年度実績枠を合計した人数より多い地区学連のことを示す。

4.第2条第3項は2023年度限りの特例措置とする

ミドル

第2条 競技者数と配分の対象

2.前年度実績枠

48名を前年度男子ミドルの実績を基に、以下の式により各地区学連に配分する。

地区学連の前年度実績枠の人数 = (技術委員会推薦出場者を除く当該地区学連前年度 30 位以内の人数) / (技術委員会推薦出場者を除く前年度上位30名) × 48

但し、小数点以下は原則として切り捨て、48名に欠ける人数分については、小数点以下の数値の大きい地区学連から順に配分する。

3.男女それぞれにおいて、対象地区学連に在籍し、日本学生オリエンテーリング選手権ミドル・ディスタンス競技部門のエントリー締切日2週間前での学生内の日本ランキング(総合エリートフォレスト)12位以内の者は、日本学生オリエンテーリング連盟の技術委員会に対して選手権への出場を希望する推薦書を提出することができ

る。技術委員会が推薦者を承認することで選手権の出場資格を得る。対象地区学連とは、各地区学連の上記基準ランキングを満たす選手人数が学連枠と前年度実績枠を合計した人数より多い地区学連のことを示す。

4.第2条第3項は2023年度限りの特例措置とする

春インカレ宿泊幹旋問題 今年度の方針について

22年度日学幹事長 浴本悠貴
23年度日学幹事長 市川竣介

目次

- 1,ここまでの議論の整理（簡潔に）
- 2,数字で見るインカレ
- 3,具体的な学生の不満
- 4,現時点であがっている候補とそれにまつわる観点の重要度の整理
- 5,4の各項目の詳細説明
- 6,結論（今年度の方針）
- 7,おまけ（春インカレへの学生の参加者を増やすために）
- 8,今後の流れ

1,ここまでの流れ（簡潔に！）

- ①北大から斡旋の自由化を求める意見書が届く
- ②春インカレまで時間がなかったことなどから2022年度は従来通り斡旋を行うことに決定
- ③しかし、蓋を開けると秋インカレに比べて参加者100人以上減。また、宿の格差など参加費が高額であること以外の不満も表出
- ④春インカレの参加者を増やす&学生の不満を解消すべく、日本学連で議論を行った

2, 数字で見るインカレ

▶22年度の秋インカレと春インカレの参加者数比較

https://docs.google.com/spreadsheets/d/1ALQ5zq1kOKrMmrPmkzgRi0QwVYjgbrj-/edit?usp=share_link&oid=106275301418881278789&rtpof=true&sd=true

▶参加者数に関する考察

https://docs.google.com/document/d/1--v1OCV9o8g81gdKfKR55GkcuDSaG2D8/edit?usp=share_link&oid=106275301418881278789&rtpof=true&sd=true

3,具体的な学生の不満

- ①春インカレの参加費が高い。
- ②高額な参加費の内訳が見えない
- ③宿によって不公平感がある（ビジホでこんなに高いの....。朝の時間や宿の差は競技成績にも影響が出る）。まだ自分達で決めたなら納得できるが、現状宿は勝手に決められてる感覚が強い。
- ④なぜ秋は幹旋がないのに春だけ幹旋をしなければならないのか
- ⑤全日本やCC7といったインカレより参加者数が多い大会でもどうにかなっているのだから宿泊難民が生まれることにはならない。
- ⑥参加費が高くて1年生が来ない

→1年生が来ないというよりはどの学年も来ていない感じだったので、今回はこの問題ではなく、上記5つの解決に注力する

①参加費が高い

⇔(22年度の場合)基本参加費は8500円で演出面や会計面等を考慮するとこれ以上は下げられない。下げるとしたら宿泊費交通費の部分。

が、宿泊斡旋をする場合、宿泊費交通費を下げるのは容易ではない（その理由については次ページで紹介します）

②高額な参加費の内訳が見えない

→(22年度の場合)32000円の内訳は

宿泊原価：金曜9000円土曜12000円

バス代片道2000円×3（ミドルの往復＋リレーの
行き）

＋手数料5000円

③宿によって不公平感がある（ビジホでこんなに高いの....。朝の時間や宿の差は競技成績にも影響が出る）。まだ自分達で決めたなら納得できるが、現状宿は勝手に決められてる感覚が強い。

⇨数百人を1箇所泊めるのは現状不可能（特に田舎で開催されることがほぼ当たり前のオリエンテーリングにおいてはトレイン近くにホテルがないこともざらにある）であるため、宿泊斡旋を続ける場合、これはほぼ解決できない（ビジホは返金額を大きくするくらい？）

宿泊斡旋をなくした場合

多くの学生がトレインから遠いホテルに泊まる

→①実行委員会が今のタイトなスケジュール通りで運営ができるのか

②参加する学生はまともな競技環境を享受できるのか

（参考までに）

22年度の場合、ホテルニュー塩原かホテルニューイタヤ（ビジネスホテル）

ホテルニューイタヤに泊まった人に対しては1人あたり3000円の返金が行われた

楽天トラベルのサイトだと

この時期で

ホテルニュー塩原:8900~15800

ホテルニューイタヤ（ビジネスホテル）素泊まり3500~

④なぜ秋は幹旋がないのに春だけ幹旋をしなければならないのか

⇔秋と違って春は大会以外に開会式・モデルイベント・後夜祭・講習会がある。日本旅行さんに手伝ってもらうことで担保できている。

→秋同様大会しかやらないのであれば、春も幹旋なしが可能か。

⑤全日本やCC7といったインカレより参加者数が多い大会でもどうにかなっているのだから宿泊難民が生まれることにはならない。

⇔遠くに泊まるのであれば宿泊難民自体は生まれない。

①ただ全日本やCC7に比べ、インカレはスケジュールがタイトであり、8-9時に会場にいらしてもらおうとすると、どうしても近隣に泊まるしかない。

②各校がバラバラに泊まって遅刻連絡とかあっても当日実行委員会は把握できない可能性が高い。

③人数の多い大学は1箇所のホテルを自分たちでは中々取りづらい(+けっこう負担が大きい)。日本旅行さんにまとめて取ってもらうことで1箇所に集まってミーティングとかできてる

→大学全体で集まらなくてもいい+実行委員会が交通宿泊に責任をもたない(遅刻とかは一切考慮しない)のであれば、斡旋をなくすことも可能？

(これをどう考えるかは人によって異なるから難しい部分)

4,現時点であがっている候補案

①一律斡旋（原則通り）

②一律斡旋しない

※ただし、この場合、開会式と後夜祭・講習会はできなくなる可能性がある

③希望者のみ斡旋

④遠方の大学のみ自由化

5,各観点の重要度整理

	①一律斡旋	②宿泊交通自由化	③希望者斡旋	④遠方自由
インカレの持続可能性	○	×	×	○
競技性の担保	○	×	×	○
ライト層の参加	×	○	○	×
モディベ・開会式継続	○	×	×	○
宿の納得感	×	△	△	×
春インカレに係るお金の各校の納得感	×	○	○	△

5,4の各項目の詳細説明

前提：選手側が運営者にどこまでを求めるか

- 会場への到達手段（自由斡旋にするなら、電車で行ける、あるいは参加者全員が停めれる駐車場とそこから会場までの移動手段の用意）
- 競技スタートが朝9時以降（朝ご飯をしっかりと食べてコンディションを整えるという意味を込めて）

インカレの持続可能性について

- ①宿泊交通斡旋は全て日本旅行に依頼するので、実行委員会の負担が減り、また、学生側の予約担当者の負担も減るので○
- ②の自由化した場合、実行委員会の工数が増え、持続可能ではないので×
- ③希望者のみ斡旋とした場合、旅行会社からみるとボリュームが小さくなることと、人数が読めなくなることから、斡旋を受ける際の単価は逆に上がる(あるいは質が下がる)(さらには斡旋不可となる恐れも)
- ④遠方の大学のみ斡旋する場合、対象となる大学はさほど多くないので、おそらく現行とほとんど変わらないため、○

インカレの持続可能性について

斡旋をやめた場合、宿泊以上に問題となるのが、駐車場問題

例えば、長野県で1000人を受け入れられる

- ・ テレイン隣接会場（選手権クラスのフィニッシュが会場となる制約・慣例がある）
- ・ 1000人分の車を停めることができる駐車場がある

場所はスキー場しかないが、春インカレの行われる3月はスキーシーズン真っただ中なので会場使用不可。

競技性の担保

①④だとほぼほぼ今まで通りなので、○

②③とした場合、タイムスケジュールがよりハードになるなかで競技に大きく関わるミスも出てくるおそれがあるので×とした。

次ページに自由宿泊とする場合、競技に関してどのような影響が出てくるのか坂野さんより詳細な意見をいただいた。

坂野さんより運営的な観点

- ・リレーの競技時間は長いので、必然的に朝早くなり、選手はどこか宿に泊まることになる
- ・ミドルを早く終わらせて会場レイアウトを大きく変えるリレーの準備をしないといけないので、ミドルも朝早くから開催したい
- ・運営や併設含め約1000人分駐車場の確保は現行のテレイン選定方針上ほぼ不可能であり、宿からバスで大量輸送するのが効率的
- ・遠い駐車場や運転手のみ運営で輸送するにしても朝に人員や時間がかかり、トラブルのリスクがかかえるのは運営上避けたい

→そのため、自由宿泊を認めるためには

- ・駐車場の確保優先で競技性の低いテレインを許容
- ・リレーやミドル運営の時短のためにこれまでより短縮されたコース
- ・会場周りのレイアウトの単純化、つまり演出や観戦の魅力低下
- ・エリート選手もクラブのために輸送や宿泊に奔走する

といった競技性の大幅な妥協の必要がある

ライト層の参加

①④ほとんどの大学は宿泊斡旋があるので、今まで通り高額に参加費を払わねばならず、ライト層の参加があまり見込めないので×

②③は今までより春インカレの参加費は安くなりそうなので、参加者増が見込めるため、○（その他の出費についてどうなるかは不明）

※実際にトータルでどれくらいの出費がかかるのか概算した資料が[こちら](#)

モデイベ・開会式の継続

①④の場合、今までも開催できているので○

②③の場合、金曜の宿泊が義務づけられないことになるので、そうなった場合、学生がモデイベ・開会式に参加するかわからない。また、開会式の会場に駐車場が全然なかった場合、車をどこに停めるのか問題が発生するのでx。

宿の納得感

①④現状は、宿の格差に不満を感じている学生もいるので×

②③自分で宿を取れるとなると、自分で取ったのだから納得はできそう。一方で早い者勝ちの宿取り合戦となり、その宿取り勝負に負けた学校は不満を抱くかもしれない。また、大人数の大学ほど大学のメンバー全員を一カ所に宿泊させることが難しいので、全員で集まってミーティングをするという春インカレ特有の文化ができない可能性がある。さらに、近隣の宿を取ることができなかった大学は極端に遠隔地のホテルに泊まらざるを得ない可能性があるため、今以上に宿の格差が大きくなるリスクがある。

そのため、結果△とした。

春インカレに係るお金の各校の納得感

①参加費の高さを感じている学生がいるので×

②③宿舎斡旋を自由化した場合、全ての大学の係るお金が下がる可能性がある。
また、自分で宿などを決めるため、会場から遠かったり分散宿泊になったり、近いが高かったりしても納得できる（納得せざるを得ない）ので○とした

④一番会場に来るまでお金がかかると思われる遠方の大学が宿泊斡旋を自由化してもらうことによって多少係るお金を安くすることができるため、△

6, 結論

北大のみ、宿泊斡旋を自由化する

理由：重要度の高いインカレの持続可能性、競技性の担保に○のついた①④のどちらかとなる。6個目の項目である、春インカレに係るお金の各校の納得性において①が×で④が△だったため、今年度に関しては④に決まった

上記結論に至った理由

北大が他の大学に比べて春インカレの会場までにかかる時間&交通費がはるかに大きいから。

東海

1名古屋大学からどちらも3日間

レンタカーの場合（5乗レンタ）

レンタ代12000円、

ガス代、高速代11100円

1人あたり4620円

公共交通機関の場合

名古屋大学⇔馬籠 片道2150円

1人あたり4300円（編集済み）

関西

京都大学から3日

レンタで移動して

レンタル代15000円

ガソリン代6000円

高速代7000円

一人あたり5600円

関東

総日数3日間（早稲田大学の場合）

レンタカーの場合（5乗レンタ）

レンタ代20000円、

ガソリン代8000円

高速代14000円

->1人あたり8400円

続き

金大の場合（1人あたり）

- ・ガス代 4588円
- ・レンタ代 4533円
- ・高速代 5870円

計14991円

東北大学 総日数4日

往復

レンタカー(8人乗り)

レンタル代65,000円

高速代20,000円

ガス代20,000円

1人あたり13,000

円（編集済み）

中九四

1 広島大学から

レンタカー(5乗レンタ) 4日間

レンタ代 16000円

高速代 16860円

ガソリン代 15000円

一人当たり 9500円

北大がかかるお金&時間は . . .

北海道・東北

北海道大学 総日数5日

往復

電車2,000円

(札幌→新千歳空港)

飛行機20,000円

(新千歳空港→セントレア空港)

車移動7,500円

(セントレア空港→会場)

前泊後泊8,000円

1人あたり計37,500円

最後に

今回お話した方針はあくまで「今年度限り」のものであります。

「インカレは大事だけど、できるだけ安くインカレに参加したい」と考える学生が増えてきていることは重々承知してますし、学生の意見も取り入れた春インカレにしていきたいと思っています。

これから幹事会で引き続き議論していきたいとは思いますが、

- ①学生が対面開会式や後夜祭をどれだけ求めているのか（より安くなるならばなくてもよいか）
- ②学生数百人を収容できる駐車場&宿が近くにあるトレインがどれくらいあるのか+そのトレインを使い回すでもよいか

この2点が解決したら幹旋自由化への道筋が見えてくるかもしれないと思っています。